

里山を守るために

大切な松を

松くい虫被害から守るために



一般的に言われている松くい虫とは、正式には「マツ材線虫病」と呼ばれる伝染病です。この病気は、マツノザイセンチュウという『線虫』が病原で、この『線虫』をマツノマダラカミキリという『昆虫』が媒介することにより、被害が伝染していきます。

市内では山林だけではなく、平野部の築地松や庭松にも松くい虫被害が拡大しています。そこで、大切な松を守るための方法と松が枯れた場合の対応について紹介します。

大切な松を松くい虫被害から守るためには？

松くい虫被害から松を守るための方法は、「薬剤地上散布」と「薬剤樹幹注入」の2つの方法があります。一般的な施行時期の目安は次のとおりです。

● 薬剤地上散布

・ 施行時期

- (1回目) おおむね5月下旬から6月上旬
- (2回目) おおむね6月中旬から6月下旬

※使用される薬剤によって、散布回数等が異なりますので詳しくは、森林組合または造園事業者等におたずねください。

● 樹幹注入

・ 施行時期

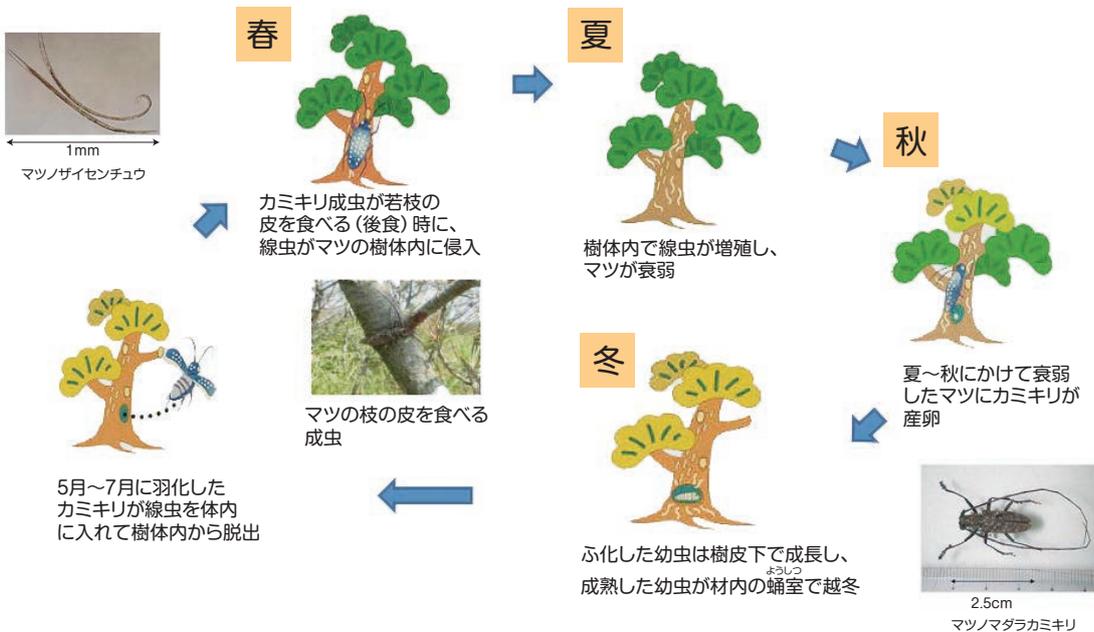
おおむね11月から翌年3月まで

松くい虫被害で松が枯れた場合は？

枯れた木を放っておくと、その周りの木にも伝染し、枯れが広がってしまいます。被害拡大を防ぐためにも、伐り倒し、できる限り処分を行ってください。

松くい虫被害など詳しくは、森林組合または造園事業者等におたずねください。

松くい虫被害発生のメカニズム



※被害の発生時期などは気候等によって異なるため、おおよその季節を記載しています。
※記載中「カミキリ」は「マツノマダラカミキリ」を「線虫」は「マツノザイセンチュウ」をさします。

市では、築地松を含めた総合的な松くい虫対策の情報提供を行うことを目的として、松くい虫被害対策専用ホームページを開設しています。

次のアドレスからご覧いただけます。 <http://www.matsukui-izumo.jp>

森林病虫害から森林。



近年、市内でもコナラなどが集団で枯れる「ナラ枯れ」の被害が発生しています。

「ナラ枯れ(正式名称:ブナ科樹木萎凋病^{ウイティョウビョウ})とは、ナラ類、シイ・カシ類の樹木を枯らす病原菌と、その病原菌を媒介する昆虫による「樹木の伝染病」のことです。

ナラ枯れ被害が多数発生した地域の駆除は極めて困難ですが、予防措置として高齢・大径化した樹木を伐採・利用することにより、里山林を若返らせることで、ナラ枯れ被害を減少させる効果があります。

市では、次の補助事業で、市民の皆さんの活動(伐採木の搬出・利活用)を支援していますので、ナラ枯れ被害防止にもぜひご活用ください。

ナラ枯れ被害の拡大を防止しましょう！

補助事業を活用し、里山の若返りを進めませんか？

活用できる補助事業

- 事業名 『みんなでつくる出雲の森事業』
- 事業内容 個人または団体が、市内の山林から間伐材などを自ら運び出し、市内のチップ工場へ持ち込みをした場合、**1トンあたり6千円**(市：3千円、チップ業者：3千円)を受け取ることができます。

※事前に登録が必要となりますので、詳しくは森林政策課へおたずねください。



ナラ枯れ被害の特徴

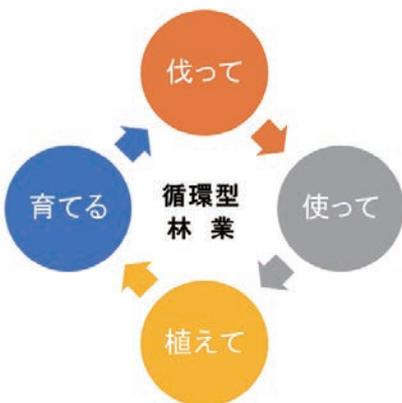
◀カシノナガキクイムシ

- ◆紅葉時期ではないのに葉の色が変わっている
- ◆被害を受ける樹種は、ミズナラ、コナラなど
- ◆太い木に被害が多い
- ◆木の根元に多量のフラス(木くず+虫糞)がたまっている
- ◆木の幹に1.5mm程度の穴が多数開いている



ナラ枯れの被害木(木の根元にフラスがたまっている)

上の項目にあてはまる場合、「ナラ枯れ」の可能性がります。



里山林を若返らせ、カシノナガキクイムシの繁殖木となる大径木を減らすことが有効

出雲市樹医センターにご相談ください

「出雲市樹医センター」には、庭木や築地松などが病虫害被害を受けたときの診断や、防除方法などの助言を行う「樹医」がいます。専門知識をもった樹医が無料で診断・助言を行います。樹木の様子がおかしいと感じたら、お気軽にご相談ください。

【おたずね】

出雲地区森林組合内 出雲市樹医センター

おしくうな
☎22-6497(平日 8時30分~17時)

森林政策課 ☎21-6996